

小城市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和6年3月）

当日差替え資料
議題第1号

公共交通体系	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
鉄道	JR小城駅・牛津駅の一日あたりの乗車人員数 現在値（令和2年度）1,567人 ↓ 目標値（令和8年度）1,800人	○各公共交通機関との連携 ○鉄道駅の機能強化 ○鉄道利用の促進	JR九州旅客鉄道（株）の公表値	達成状況 ・令和4年度 1,555人 （令和5年度末時点公表内容） 分析 アフターコロナの時期に入り、鉄道利用者については、回復傾向となっている。ただし、市内の駅乗車人員数については昨年度とほぼ横ばいの厳しい結果となっている。 令和5年度の乗車人員数が未公表のため、前年度の公表値にて分析	・アフターコロナの時期に入り、通勤・通学さらには観光客の鉄道利用が徐々に回復している。しかし、市内の駅の乗車数については、昨年度とほぼ横ばいの数値となっている。 ・昨年度に引き続き、鉄道交通の充実に係る要望活動やPRを実施していく。 ・小城駅120周年を記念して、地元関係者、JR、市の方で清掃活動を実施。 ・令和5年度は、牛津駅のロータリー整備を実施。	
路線バス	利用者数 現在値（令和2年度）378,215人 ↓ 目標値（令和8年度）450,000人	○各路線バスの運行維持 ○県・関係自治体との連携	運行事業者からの報告	達成状況 ・令和5年度 439,494人 分析 アフターコロナの時期に入り、利用者数が回復傾向である。	・路線バスについては、令和5年度はアフターコロナの時期に入り、各指標が回復傾向となっている。 一方で原油価格の高騰や世界的な物価の上昇、さらには運転手不足といった課題もあり、各路線については引き続き厳しい運行状況となっている。 ・令和5年度は、県で「さがまるっとバスフリーDAY」を実施され、小城市も事業に参画。 ・路線バスの路線維持や利用者を増やすため、引き続き、関係者間での協議や情報共有を行っていく。	
	運行収入と運行費用の差額 現在値（令和2年度）△301,340千円 ↓ 目標値（令和8年度）△165,000千円		運行事業者からの報告	達成状況 ・令和5年度 △272,139千円 分析 アフターコロナの時期に入り、運行収入と費用の差額は改善傾向となっているが、依然として費用の超過額が高い水準となっている。		
	小城市からの財政支出額（補助額） 現在値（令和2年度）29,484千円 ↓ 目標値（令和8年度）16,000千円		補助交付額	達成状況 ・令和5年度 31,770千円 分析 アフターコロナの時期に入り、市からの補助額については改善傾向であるが、コロナ以前と比べると高い数字で推移している。		
廃止路線代替バス	利用者数 現在値（令和2年度）13,634人 ↓ 目標値（令和8年度）20,000人	○運行路線の維持 ○運行時刻、便数の見直し	運行事業者からの報告	達成状況 ・令和5年度 10,682人 分析 新型コロナ前に比べると、以前として厳しい数値である。	・廃止路線代替バスについては、令和5年度アフターコロナの時期に入り、依然として利用者が減少傾向となっている。併せて、原油価格の高騰による燃料費の増加や世界的な物価の上昇もあり、引き続き厳しい運行状況となっている。 ・令和5年度は、県で「さがまるっとバスフリーDAY」を実施され、小城市も事業に参画した。 ・利用者の増加に向けて、運行事業者や共同で運行補助をしている白石町と協議・検討を続けていく。 ・運行時刻についても、関係者で情報共有や協議を行っていく。	
	運行収入と運行費用の差額 現在値（令和2年度）△12,767千円 ↓ 目標値（令和8年度）△11,000千円		運行事業者からの報告	達成状況 ・令和5年度 △14,488千円 分析 利用者の伸び悩みや燃料費をはじめとした物価高騰もあり、費用の超過額が高い水準にある。		
	小城市からの財政支出額（補助額） 現在値（令和2年度）12,768千円 ↓ 目標値（令和8年度）11,000千円		補助交付額	達成状況 ・令和5年度 14,487千円 分析 利用者の伸び悩みや物価高騰の影響もあり、小城市の補助額について、コロナ以前と比べると高い数字となっている。		

公共交通体系	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
コミュニティバス 乗合タクシー	利用者数 現在値（令和2年度）10,426人 ↓ 目標値（令和8年度）16,000人	○運行路線の維持 ○運行方法・時刻の見直し ○新たな路線等の検討	運行事業者からの報告	達成状況 令和4年度 9,163人 ・令和5年度 9,897人 分析 アフターコロナの時期に入り、利用者数が回復傾向となっている。 ※令和4年度（R3.10.1-R4.9.30） 令和5年度（R4.10.1-R5.9.30）	・令和5年度アフターコロナの時期に入り、利用者数が回復傾向となっている。原油価格の高騰による燃料費の増加や全世界的な物価の上昇もあり、引き続き厳しい運行状況となっている。 ・令和5年度は、県で「さがまるっとバスフリーDAY」を実施され、小城市も事業に参画。 ・フリー乗降区間の新規設定や過疎地域（芦刈乗合タクシー）の運行日・便数の追加及び乗継割引等の拡充に向けて関係者と協議を進めた。 ・高齢者の方々の生活に必要不可欠な事業であり、運行の維持と財政支出のあり方について、引き続き協議が必要。 ・利用者が少ない路線系統について運行方法の見直し等の検討を引き続き行っていく。 ・新公立病院へのコミュニティバスの乗入れについては、関係機関と協議を進める。	
	運行収入と運行費用の差額 現在値（令和2年度）△21,947千円 ↓ 目標値（令和8年度）△20,000千円		運行事業者からの報告	達成状況 令和4年度 △22,228千円 ・令和5年度 △23,293千円 分析 燃料費をはじめとした物価高騰もあり、費用の超過額が高い水準にある。 ※令和4年度（R3.10.1-R4.9.30） 令和5年度（R4.10.1-R5.9.30）		
	小城市からの財政支出額（負担額） 現在値（令和2年度）23,093千円 ↓ 目標値（令和8年度）22,500千円		負担金交付額	達成状況 令和4年度 23,273千円 ・令和5年度 24,454千円 物価高騰の影響もあり、小城市からの財政支出額について、コロナ以前と比べると高い数字となっている。 ※令和4年度（R3.10.1-R4.9.30） 令和5年度（R4.10.1-R5.9.30）		
民間タクシー	利用者数 現在値（令和2年度）82,973人 ↓ 目標値（令和8年度）130,000人	○利用促進策の検討	九州運輸局公表資料から	達成状況 ・令和4年度 85,359人 （令和5年度末時点公表内容） 分析 ・アフターコロナの時期に入り、市内のタクシー利用者数については回復傾向にある。ただし、目標値と比較すると依然として厳しい結果となっている。 ※令和5年度の利用数が未公表のため、前年度の公表値にて分析	・令和5年度はアフターコロナの時期に入り、利用者数が回復傾向となっている。一方で原油価格の高騰や全世界的な物価の上昇、さらには運転手不足といった課題が残る状況である。 ・令和4年度に運転免許返納者への割引制度の拡充された。市も引き続きホームページやチラシ等でPRを続けていく。 ・事業者からは、ドライバー確保に苦慮しているとの意見が挙がっている。	
公共交通共通	公共交通機関が便利だと思う市民の割合 現在値（令和2年度）27.60% ↓ 目標値（令和8年度）40.00%	○情報提供・PR ○市民協働による公共交通の在り方検討 ○ICT技術等の導入検討	毎年実施する総合計画アンケート結果	達成状況 ・令和4年度 36.60% （令和5年度末時点公表内容） 分析 ・前年度と比較し、改善傾向となっている。 令和5年度のアンケートのため、前年度の結果を用いている。	・公共交通に関するPR等については、年間を通し実施している。 ・県などが実施する公共交通の事業への参画やPRを行う事によって、引き続き市内の公共交通の利用促進につなげたい。 ・アンケートや乗込み調査等を実施しながら、よりよい公共交通の運行に繋げていきたい。 ・今後の公共交通の在り方については、国・県・関係者も含め、更なる協議・検討が必要。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外には「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。